

Masterpieces from the Kyoto Municipal Museum of Art

京都市美術館名品展

京の美人画

100年の系譜

2018年4月21日[土]—6月3日[日]

開館時間 9時30分—19時(但し日曜日は17時閉館)／初日4月21日[土]のみ展示室入室は10時15分／入室は閉館30分前まで
休館日 月曜日(ただし4月30日[月・祝]開館、5月1日[火]閉館) 開展式 4月21日[土]10時—

入場料 一般1000円(800円)／大学生500円(400円)／高校生以下無料 ※内は前売及び20名以上の団体料金

※前売チケットは、高松市美術館1階受付、高松市役所生協ゆめタウン高松サービスカウンター、宮脇書店本店及び南本店にて4月20日[金]まで販売
※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

主催 高松市美術館 特別協力 京都市美術館

高松市美術館

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4
TEL 087-823-1711 FAX 087-851-7250
図版 菊池契月〈少女〉(部分) 昭和7年 京都市美術館蔵

Kyoto Bijin-ga

TAM

高松市美術館
TAKAMATSU ART MUSEUM

開館30周年記念

〈関連イベント〉

予約・問い合わせは高松市美術館 (tel.087-823-1711) まで

和装ウィーク ～着物で美術館へ出かけませんか?～

4月28日[土]～5月6日[日]

期間中、和装でお越しの方は通常観覧料の半額(一般1,000円→500円、大学生500円→250円)でご入場いただけます。

記念講演会(1階講堂/無料/先着120名)

◆記念講演会①「近代京都の美人と「美人画」

講師:中谷至宏(京都市美術館学芸員)

4月21日[土] 13:30～15:00

◆記念講演会②「美人画で見つける日本画の話」

講師:森山知己(日本画家)

5月20日[日] 13:30～15:00

日本画ワークショップ

講師:森山知己(日本画家)

5月20日[日] 9:00～12:00/3階講座室/小学4年生以上

定員15名/受講料500円/別途要材料費/要電話予約(4月17日[火]8:30～)

子ども鑑賞プログラム

◆特別鑑賞会「にほんがのせかい」

5月19日[土] 9:00～9:30

2階展示室/4歳～10歳/定員10名/※未就学児の方には保護者の方が付き添って下さい(要観覧券)/要電話予約(4月17日[火]8:30～)

◆アートで遊ぼう!

4月28日[土]「京の美人画100年の系譜」、6月2日[土]「第1期常設展」、7月7日[土]「第2期常設展」

9:30～11:00/中2階ロビー/小学生先着15名/無料/単発参加可/要電話予約(4月5日[木]8:30～)

ギャラリートーク(2階展示室/要観覧券)

当館学芸員:4月28日[土]、6月2日[土] 各14:15～

ボランティア:会期中の毎日曜・祝日 11:00～、14:00～(但し、5月20日[日]は11:00～のみ)

エントランス・ミニコンサート「美人画と和楽器の調べ」

4月28日[土] 13:30～14:00 1階エントランスホール/無料

演奏:松下雄介(尺八)、篠田哲篠(箏)

友の会スペシャルイベント お茶会「ほっと茶の会」

5月6日[日] 6席開催

中2階ロビー/会員500円、一般1,000円

当日9:30～1階受付にて整理券配布

会員のみ先行予約あり

協力:(公財)中條文化振興財団

※各イベント詳細は美術館HP等をご覧ください。

〈その他お知らせ〉

●同時開催:第1期常設展 6月24日[日]まで

●次回展:「高松コンテンポラリーアート・アニュアルvol.07」7月27日[金]～9月2日[日]

●開館30周年記念「三輪真弘コンサート」7月中旬予定

●高松市美術館・高松市塩江美術館共通定期観覧券(年間パスポート)3,000円(65歳以上1,500円)発行日から1年間何度でも楽しめる!

●高松市美術館サポートショップ

美術館周辺のサポートショップへ特別展の半券を持っていくと、お得な特典が受けられます。※特別展会期中のみ



〈交通のご案内〉●JR四国/JR高松駅下車、南へ徒歩約15分 ●ことでん/瓦町駅、片原町駅下車、徒歩約10分 ●バス路線/ショッピングライン(循環バス)紺屋町バス停下車、徒歩約2分(まちバス)丸亀町参番街下車、徒歩約3分(高速バス)県庁通り下車、徒歩約8分 ●駐車場/美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容)



2



1

京都市美術館名品展

京の美人画100年の系譜

京都市美術館は、1933(昭和8)年に大札記念京都美術館として開設され、1952(昭和27)年に現在の名称となりました。同館は近現代美術を展示する西日本最大の施設のひとつとして、現在にいたるまで大きな役割を果たしてきました。明治以降の京都を中心とした数多くのコレクションは日本近代の美術・工芸の流れを物語るものとして高く評価されています。

そのコレクションの中でも本展では「美人画」に着目します。女性像は古くから描かれてきましたが、明治以降、美術の中心的な主題として花開くとともに変動する社会の中で多様化していきます。大正から昭和にかけては、時代を象徴するモダンガールも登場し、和洋渾然とした装いやモダンな調度品に囲まれた女性の豊かな生活が描かれます。女性の描写は、とりもなおさず時代を映し出すものであったといえるでしょう。

本展では京都市美術館所蔵の日本画から精選した、上村松園《人生の花》、土田麦僊《平牀》、前田青邨《観画》、菊池契月《南波照間》など約70点の名品を通して、明治・大正・昭和にいたる女性像のさまざまな表現と変遷を紹介します。



4



3



5

1 菊池契月《南波照間》昭和3年 2 土田麦僊《平牀》昭和8年
3・背景(部分) 上村松園《人生の花》明治32年 4 秋野不矩《紅裳》昭和13年
5 板倉星光《春雨》昭和5年 全て京都市美術館蔵